

江戸の時代の城下町を思い浮かべながら、姫路の町をお散歩。

姫路城外濠めぐり・東編

姫路城は大天守だけではない！ 縄張りは広く、濠は螺旋状に左に三重に回っています。
その最も外側の「外濠」と呼ばれる部分の約半分を歩いて姫路城の大きさを実感してください。



所要時間

75分



姫路城外濠めぐり・東編

姫路城は大本守ではない! 縄張りは広く、濠は螺旋状に左に三重に回っています。その最も外側の「外濠」と呼ばれる部分の約半分を歩いて姫路城の大きさを実感してください。



所要時間

75分

① 飾磨門跡

姫路城大手口にあたる飾磨門は南北約80m×東西60mの大きな門だった。門の土塁は山電姫路駅建設時に埋め立てに供された。

② 豊沢橋と外堀川

上流の神屋公園から姫路駅間の濠は埋立てられたが、濠の水は外濠川となって播但線沿いに三左衛門堀、さらに野田川と名前を変え、やがて海にいたる。

③ 北条口門跡

兵庫信用金庫本店前の交差点は北条口門跡である。外濠は姫路停車場沿いに南に巽橋まで続いていた。巽橋近くに荷馬車の置場があった。

④ 外濠公園

濠はここから東に曲がる。河合宗元顕徳碑は戦前まで河合屋敷跡にあり、戦後護国神社に放置されていたが、明治百年記念行事に際し同公園に移設した。西に見える川崎病院は元東小学校跡である。

⑤ 大阪ガス付近

外濠川は2号線を暗渠で流下、商工会議所の南斜めの正法寺に輝政の供養塔がある。東方に古代「飾磨の市」があった。「市川」「市之郷」の地名の由来とされる。濠は外京口門まで直線に伸びて行く。

⑥ 外京口門跡

西国街道に面した東方への重要な門、明治初期外濠の東側を埋め立て生野までの馬車道が通る。門跡には姫路警察署・教育伝習所が置かれ、後に旧制姫路中学校・県立姫路高等女学校となり戦後東光中学校となる。中学校体育館床下に石垣が残されている。伝習所付属の小学校は隣に移転し残っている。

⑦ 五国橋

五軒邸と国府寺町境界。橋名もこれに因る。ペーカ氏(青い目の良寛さん)は幼稚園児のために架橋したとの伝えられている。現在もヘイカの名前の付く保育園と幼稚園が五軒邸にある。

大将軍神社は十二所神社のお旅所で、南畝町の西端にある。南畝は風土記の長畝から南畝に転じたと言われている。

⑧ 竹の門跡

城の東北、鬼門筋になる。鬼門は木門に通じ竹(他家)門としたとされる。附近にゴルフセンター京口団地がある。戦前日本メカス・日本レーヨン・日本毛織・川西航空機等の工場があった。濠は馬車道と別れ西に曲がる。

⑨ 五軒邸北口

町名は、昔農家が5軒あり五軒屋と呼ばれていたことに由来している。濠は西から北へと曲がり堀留まで続く。途中、姫路城外濠跡の碑が2ヶ所ある。濠は埋め立てられ道路となる。

⑩ 同心橋

橋を渡り西に進むとT字路が多く「のこぎり横丁・あて曲げ」等城下町特有の道に出会う。さらに進むと野里門跡にいたる。北方に広峰山が展望できる。奉行・与力・同心の住居があったことから同心町となった。橋の東は野里同心町。

鍛冶町は、野里から城東にかけての鋳物師集団の関連した地域。鍛冶屋町と呼ばれていた。但馬への旧本道、戦後は米進駐軍のメインストリートとなった。

外濠の内側はぜんぶ姫路城内といえるのです。その大きさを歩いて実感!

城東小学校の開校は古く、日本史学者、三上参次、落語家桂米朝、保育事業創始者野口ゆか等が在籍した。直線道路は、増位山への山アテともされる。

河合惣兵衛は家老河合寸翁の一族であり、勤王の志士として49才で処刑された。河合橋は河合惣兵衛に由来する。昭和20年6月米軍爆撃で橋下に避難した人々が多数死亡したと伝えられている。

城に至る幹線道路は時代により移り変わった。江戸時代~明治36 ①中ノ門筋(左) 明治36~昭和30 ②御幸通り(右) 昭和30~現在 ③大手前通り(中)

紙神屋公園は元県立女学校の実習農園であった。付近には、平成23年までイオン系列のマックスバリュ本社があった。姫路がイオン発祥の地である。

⑪ 堀留

勢隠から内濠・中濠・外濠と続く濠は米屋町と野里堀留町の境で終わる。ここにも姫路城外濠跡の碑がある。碑の南にある五郎右衛門邸は鋳物師頭領芥田家の敷地であった事による。

⑫ 外濠北部

北部中濠の北には濠はない。万一の戦には鍛冶町から西方の船場川まで堀や柵等の備えが想定されていたという。

この道は明治9年、生野鉱山と飾磨港を結んだ日本初の高速道路で銀の馬車道と呼ばれ南に行くくと飾磨港と通じる。

旧国鉄機関区は北条口門跡東方の土地にあったが、電化によって網干・余部・別所に分散、貨物基地は別所に移転した。

